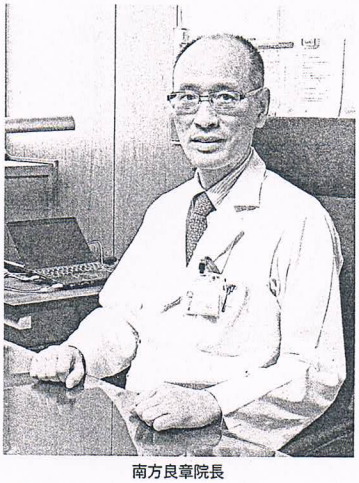
高齢化社会を支える医療体制を整え 地域医療の先端を

呼吸器内科の拡充と今春の新病棟完成を機に 生まれ変わる和歌山病院

美浜町和田、松林に囲まれた閑静な地に建つ国立病院機構和歌山病院。循環器内科と呼吸器内科の両方を軸に運営してきたが、県立和医大の方針で一昨年４月から循環器内科を順次縮小。昨年３月には全面的にその機能を国保日高総合病院へ移転した。代わりに和歌山病院は、呼吸器内科をより充実拡充させ、県内でもトップレベルの治療を提供。ほか乳がんや放射線治療、神経難病にも力を注ぎ、過去の療養所のイメージを一新、一歩先を行く地域医療機関への脱皮を目指す。今春には新病棟も完成。生まれ変わる和歌山病院の今後を、一昨年４月に赴任した南方良章院長（55）に聞いた。

今春完成予定の新病棟

南方良章院長新春インタビュー


南方良章院長

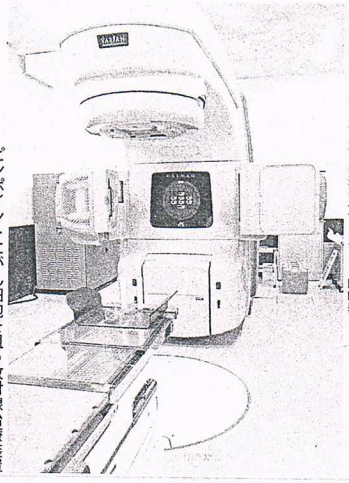
呼吸器に強い病院として

和歌山県は肺がんの死亡率が全国で最も高く、COPD（慢性閉塞性肺疾患）でも全国ワースト2位。しかし県内には、呼吸器の医師は少ない。そんななか和歌山病院は、循環器内科を核など、さまざまな肺疾患の患者を受け入れている。

では和医大に次いで日赤病院と並ぶ入員を備えた。

現在、外来ではぜんそくやCOPD、入院は肺がんや肺炎の患者を多く診察・治療。他にも、睡眠時無呼吸症候群や呼吸不全、結拡充。それまで3人だった医師を6人に増やし、県内

県内で貴重な呼吸器専門医療機関として


ピンポイントにがん細胞を狙う放射線治療装置

がん、アレルギー、呼吸不全など肺そのものの病気も多いなか、肺以外の全身の疾患も間接的に呼吸器に絡んでくる。COPDなどは高齢者に多く見られ、社会が高齢化するなかで今後症状を訴える患者は増加する。なのに、全国的に見ても、呼吸器を専門とする医師は少ない。それは医師の負担が大きいから。呼吸器の医師は、どこの病院でも欲しいのが現状。そんなな か今、必要に迫られて、専門に呼吸器を志す若い医師が増えつつある。

和歌山病院では、県内の肺疾患患者、特に専門的医療機関の少ない南部の患者に広く対応できるよう、基盤強化を進めて行きたい。

地震津波を見据えた新病棟で患者の安全を守り、地域の避難所の役割も担う

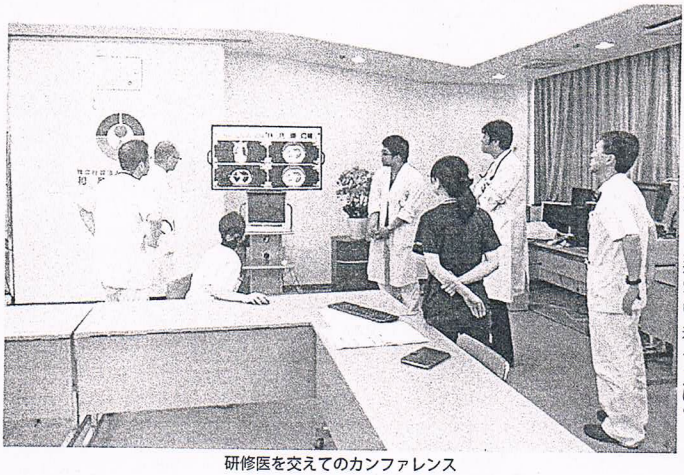
今春完成する新病棟は、平成24年8月に南海トラフ巨大地震における内閣府の津波浸水想定が発表され、続いて平成25年3月には、同県予想で津波想定が最大5mと発表されたのを受け、当初計画を全面見直して建設したもの。

1階部分を5mの高さの橋脚だけで上階を支える建築（ピロティ）とし、2階から4階部分に重心160床、結核15床、一般135床の計310床を配置。5階は重心患者の療養訓練などを行う場として、災害時でも診療を継続できる体制を整えた。

災害を考慮し、建築基準は一般的なものよりレベルの高い建築・耐震基準に沿うた。自家発電機や貯水槽は、強固な特殊構造のもの を設置。ほか、ヘリポートも、循環器内科縮小に伴い院内設置の必要はなくなったが、周辺自治体の要望を受けて設け、地域に密着した救急・災害医療病院として災害時対応機能を備えた。

医学生の教育にも注力し地域社会への貢献を

一昨年から、医大学生や研修医の受け入れを始めた。県立和医大の5年生を一泊二日で研修させたのも、若い医師らの教育に力を注ぎ始めた。和歌山市から見れば和歌山病院の建つ美浜町は田舎のイメージがあるが、若い医師や学生を早くからこの地で教育することで、地域に親しみを持たせ、将来的に地域医療へ貢献するよう導きたい。

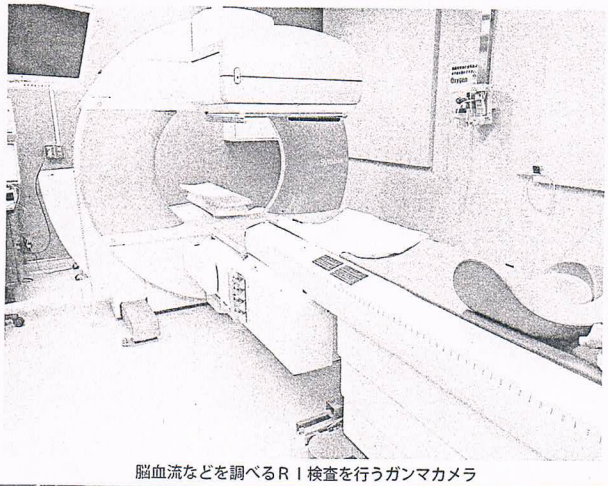

研修医を交えてのカンファレンス

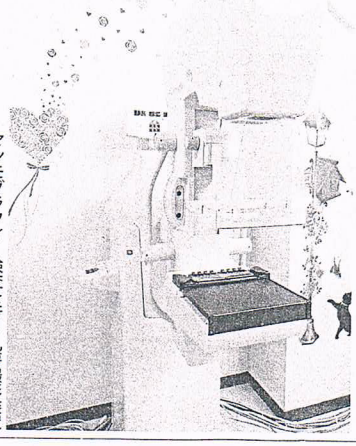
女性にやさしい乳がん対応と病巣を狙い撃ちする放射線治療

乳がん治療を手がける宮坂美和子医師

日高・御坊地域に乳がんの専門医はおらず、患者はこれまで、田辺市や和歌山市の病院へ送っていた。しかし和歌山病院では今、和医大から女医を呼び、乳房専用のレントゲン検査・マンモグラフィーの女性検査技師も配置。女性にやさしい検査や手術、治療のできる体制づくりを進めていく。

放射線治療では、3Dでピンポイントにがんに放射する方法を取り入れている。副作用が少なく、がんの縮小効果が大きいこの治療は、肺がんはもちろん、消化器、泌尿器など全てのがんに対応。その効果は、近隣病院の患者も治療に通ってくるほど。


脳血流などを調べるＲＩ検査を行うガンマカメラ


マンモグラフィー検査を行う乳房撮影装置

高齢化社会のなかで認知症や在宅ケアへの対応も

社会が高齢化するなかで、認知症は大きな問題。認知症は物忘れから始まるが、人間はプライドがあるからそれを隠そうとする。それで周りとうまくいかなくなる。和歌山病院では、早期に認知症を発見できる検査・RIを受けることができる。RIを活用することで、本人がいち早く治療に取りかかれるだけでなく、介護者が病気を認識することで、原因が分からないことから生まれる不安を解消できる。神経内科ではその他、神経難病にかかるネットワークを構築してお り、和医大とともに基幹病院となって、治療や介護の情報交換に努めている。厚生労働省は今、在宅医療を進めている。在宅介護が難しい患者でも、在宅で看て頑張る家族もいる。在宅介護を支えるためには、介護者をケアすることが大切。和歌山病院では在宅介護者の息抜きのために一時的に患者を預かる体制を敷いている。

これからの時代になにが必要かを見据えてやっていきたい。